

H25年度第2回水文部会 議題

- 水工学委員会報告(13.3.4)
- 活動報告
 - 第14回地下環境水文学に関する研究集会(10/5-6)
 - 水文研究集会(10/14-15、福島)
- 提案:「水文サマースクール(仮)」
- 44, 000円の使い道

水工学委員会報告(H26.3.4) 1

- 体制:
 - 委員長: 道奥(神戸大): 幹事長: 立川(京大)
 - 水工学論文集幹事: 知花(東大)
- 水害対策小委員会 2013年3月発足
 - 委員長: 堀(京大)
- 水理公式集改訂作業 (第60回水工の記念?)
 - 各編の担当が決定
- 土木学会論文集 水工学B1
 - 論文までの期間
 - 水工学B1 8.16ヶ月: 英文 数ヶ月
 - JSTAGEのXML化()
 - 「査読依頼は辞退しないで~」(関根委員長より)

水工学委員会報告(H26.3.4) 2

- 水シンポ(H26長崎)
- 水工学研修会(H26、九州工業大学)
 - 大規模水害と予測
- H27水工学講演会(調整中)
 - 2015年3月10日(火)–12日(木) 早稲田大学

水工学委員会報告(H26.3.4) 3 水工学論文集

- 報告
 - USB化幻におわる。当面CD。クラウド化?
 - トラブル: 著者から「著者から削除して欲しい!」
 - 過去数年間トラブルがあり。
 - 論文提出時に、全著者に確認を!
 - 来年度から「著作権譲渡書」の提出してもらおうことがあります。
 - 2重投稿に注意。(懲罰も?)
- 決定
 - 土木学会論文集掲載論文を、水工学講演会で発表できる権利を有する(義務では無い)
 - 水工学論文集に投稿 -> 水工学講演会で発表
 - 土木学会論文集B2 -> 水工学講演会で発表

水工学委員会報告(H26.3.4) 4 水工学論文集

- 投稿キーワードが“古い“
 - 投稿キーワードの役割
 - 投稿論文のグループのグループ分け
 - 査読者割振時に使用
 - 講演会でのセッション分けにも反映
- 現在のキーワード:
 - 水文統計・PUB、流出、大気陸面過程、降水、雪氷水文、地下水・浸透、河川計画、河川管理
- 最近の傾向
 - 「河川計画・河川管理」が「その他」の役割も果たしている

投稿キーワードの更新について

従来

- 水文統計・PUB
- 流出
- 大気陸面過程

- 降水
- 雪氷水文
- 地下水・浸透
- 河川計画、河川管理

今後(案)

- 流出解析(?)
- 水文気象プロセス
- 気候変動リスク評価

- 降水
- 雪氷水文
- 地下水・浸透
- 河川計画・河川管理

活動報告 水文研究集会、H25.10.14-15

- 場所：福島県～仙台海岸
 - ホスト：福島大学(横尾先生、川越先生ほか)
- 参加者：17名
- 内容・行程：
 - 14日(福島県穴原温泉)：研究会
 - 基調講演「もしドロッカーが教育研究をマネジメントしたら」(東大生研、沖大幹教授) > 部会HPに掲載予定
 - 15日：見学
 - 福島県県北浄化センター、阿武隈川中流部、同河口部復旧工事、仙台空港周辺復旧工事
 - 協力：県北浄化センター、仙台河川国道事務所

提案 “水文サマースクール(仮)”

水文研究集会

- 過去の水文研究集会
 - 2013年10月 福島・阿武隈
 - 2011年10月 富山
 - 2010年9月 球磨川
 - 2010年3月 北大(小水文研究集会)
- 目的
 - 現場見学(治水施設など)
 - 部会員間の親睦(特に若い研究者・学生)

水文研究集会

- 問題点(?)
 - 毎年やればいいじゃん。
 - 中々出かけにくくなった。集まりにくくなった。
 - 集まりやすい都会で
 - 元気な(だった)若手がおじさんになりつつある。
 - 若手が、パーマネント職に就く年齢が高くなりつつある。

“サマースクール”

- 講義を中心とした「研究集会」
- いくつかの例、
 - NCAR(米国気象研究センター)、CESM Tutorial
 - NCAR-GCMの利用講習会
 - 約80人、4泊5日、8月、講義+演習
 - PALM seminar(独、ハノーバー大学)
 - 乱流モデルの開発者によるユーザー対象の講習会
 - 約20人、4泊5日、毎年各国で、講義+演習
 - 海洋データ同化夏の学校(海洋科学振興財団)
 - 3泊4日(まる3日)、毎年、講義+演習
 - 気象学会夏の学校
 - 約100人、2泊3日、毎年、研究発表中心

「水文夏の学校」(仮案)

- 目的
 - 水文コミュニティ共通の若手・学生教育のしくみ
 - 水文研究集会のもう一つのバージョン
 - 可能ならば、見学会と夏の学校を、それぞれ隔年で
- 詳細
 - 1回/2-4年(夏休み中)、2泊3日程度、座学中心、
 - 講師 数-5名程度
 - テーマを1, 2つ決める
 - 対象：大学院生、若手
 - アクセスのよい大学で
 - 実行TF作り、継続性を考えて